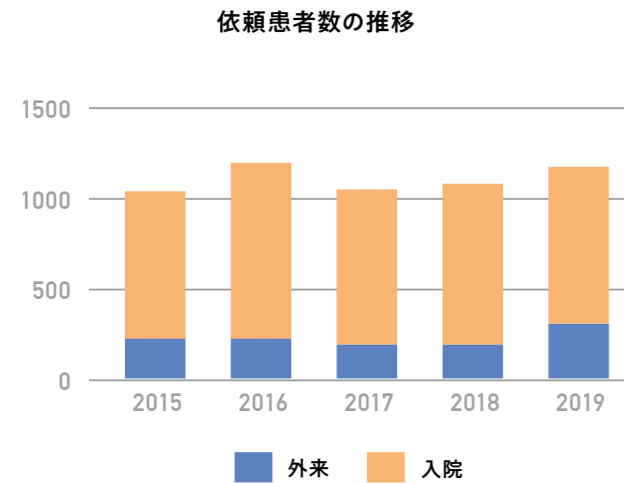


# 他ではできない精神腫瘍科の体験を!

## 診療科としての人材育成のポイント

当院精神腫瘍科は、1992年に我が国において初めてがん専門病院に設置された精神部門としてスタートし、一貫して患者およびそのご家族の精神的苦痛の緩和に取り組んで来ました。症例数が非常に多く、例えて言えば通常では10年かかるような研修も、臨床経験豊富なスタッフの指導のもとに短期間で経験することが可能です。また、臨床研究も積極的に実践しており、こちらに関しても学位取得を目指した研修が可能です。がん対策推進計画にあるとおり、早期からの心のケアを含めた緩和ケアが必要とされる中で精神腫瘍科への要請は大きいのですが、充足しているというには程遠い現状があります。我々は今後この領域を一層に担ってくれる仲間を強く求めています。まずはお気軽にお問い合わせください。個別見学も大歓迎です。

## がん診療の中核を担う施設での豊富な臨床経験



TOP 5 of cancers by site	N	%
Lung	198	17.3
Lymph/Blood	172	15.1
Mesothelioma/Soft tissue tumor	112	9.8
Colon	105	9.2
Head and neck	83	7.2

TOP 5 of cancers by site	N	%
Delirium	302	25
Adjustment disorders	218	18.1
Dementia	63	5.2
No diagnosis	316	26.2
Other	250	20.7

圧倒的に豊富な症例数

## 患者サポート研究開発センターでの様々なサポートプログラム



- 患者サポート研究開発センター（写真左）での、多職種連携による多種のプログラムの実践による患者・家族サポート
- AYAひろば（写真中央）やリラクゼーション教室など、サポートグループを運営
- 行動活性化外来（写真右）などで構造化された精神療法を経験可能
- 病的な精神症状（うつ病やせん妄など）に加え、がん罹患に伴う様々な心理反応（否認、怒り、死に対する恐怖、再発不安、実存的苦痛）、遺族ケア、ケミカルコーピング、心理社会的背景の関与の大きな疼痛への対応を学べます。

## 患者サポート研究開発センターでの様々なサポートプログラム

- がん専門修練医コース：すでに一定の経験があり、精神腫瘍学の臨床を極めるとともに、研究・教育プログラムの計画立案に関与し、将来この領域を牽引する人材を育成するコース
- レジデント2年・3年コース：がん医療におけるさまざまな場面での臨床経験を積むとともに、関連部門をローテートし、あらゆる場面での臨床に対応できるようになることを目的としたコース
- レジデント短期コース：希望される期間（6か月-1年6か月）でがん研究センターの研修機会を活かしたい方
- 専攻医コース（連携施設型）：日本精神神経学会の専攻医として精神腫瘍学の研修を希望される方のためのコース（3-12か月）
- 任意研修コース：希望される研修期間に応じて国立がん研究センターの研修機会を活かしたい方

研修に関するお問い合わせ先

国立がん研究センター 中央病院  
精神腫瘍科

教育担当：  
松岡 弘道

メールアドレス：  
hiromima@ncc.go.jp

中央病院レジデントプログラム HP  
<https://www.ncc.go.jp/jp/ncch/division/cepcd/resident/index.html>



Facebook 中央病院 教育・研修情報  
<https://ja-jp.facebook.com/CancerEducation/>

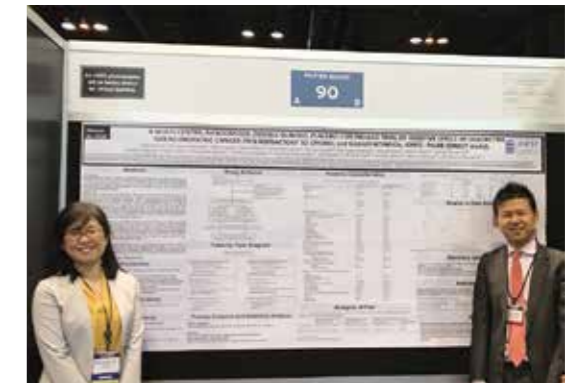


## 精神腫瘍学をリードする指導医の直接指導

- 精神腫瘍科スタッフ（松岡弘道、中原理佳、平山貴敏）による直接指導
- 多施設合同でのテレビ症例検討会（全国のがん専門病院と）、数多くの緩和ケアセミナー
- 緩和ケアチームの一員として、緩和医療の専門家の指導も受けられる



国立がん研究センター中央病院緩和ケアチーム



緩和医療科との連携

## 臨床研究への参画

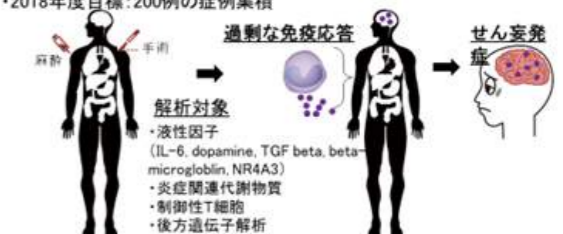
- AYA 世代がん患者の心理社会的困難及び成長に関する調査研究
- AYA 世代がん患者のサポーターケアに関する臨床的特性および効果等に関する研究
- 思春期・若年成人がん患者を対象とした「NCCN® Distress Thermometer and Problem List」日本語版スクリーニングシートの妥当性に関する半構造化面接調査
- うつ病のがん患者に対する行動活性化療法の有用性に関する研究
- 外科的がん切除後のせん妄の発症及び持続的認知機能低下を予測するバイオマーカーの開発
- がん患者家族に対する精神腫瘍学的介入に関する評価についての後方視的研究
- がん患者の周術期精神症状に対する抑肝散の有効性及び安全性に関する二重盲検ランダム化比較試験
- 同種造血幹細胞移植サバイバーにおける精神的苦痛の実態と、その心理社会的規定因子に関する検討
- オピオイド不応の神経障害性疼痛に対するプレガバリンとデュロキセチンの国際共同ランダム化比較試験（緩和医療科、豪州 PaCCSC との共同研究）

J-SUPPORT1605  
がん患者の周術期精神症状に対する抑肝散の有効性及び安全性に関する二重盲検ランダム化比較試験



## 外科的がん切除後のせん妄の発症及び持続的認知機能低下を予測するバイオマーカーの開発

- ・目的：術後早期にせん妄発症を予測するバイオマーカーの開発
- ・デザイン：前向き観察研究（一部抑肝散研究のデータを活用）
- ・FIOC(基盤的臨床開発研究コアセンター)との共同プロジェクト
- ・2017年度進捗：IRB承認、一部研究資金獲得
- ・2018年度目標：200例の症例集積



がん専門修練医や希望するレジデントは研究プロトコルの計画立案を行い、主体的に研究を実践する